

# この冬への備え

## 新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンについて

### 〜ツインデミックは起きうるか?〜

藤沢市における新型コロナウイルスワクチン接種は、2021年3月25日に医師会館において藤沢市長立会以下のデモンストレーションでスタートしました。予診、接種、経過観察、アナフィラキシー対応の実演を行いました。その後GW明けから医療機関個別接種を開始し、6月24日からは藤沢市役所本庁舎を皮きりに集団接種も開始しました。集団接種は辻堂のココテラスを主会場（1日1000人以上の大規模接種実施）

として、村岡のiPark湘南、秋葉台体育館、湘南台のJ.A.さがみ、いすゞプラザ、藤沢駅前のフジビルとフリーポートパーキング等で行って来ました。接種実績は、2022年10月10日時点で、初回接種（2回接種）完了者は約35・3万人で対象人口接種率は87・8%に上りました。これは神奈川県平均を超えていました。3回目接種完了者は約28・1万人（70・7%）であり、さらに実施中の4回目接種を含めた全接種回数は約111万回になりました。接種会場別にみても、約75%は医療機関個別接種であり、市集団接種は約12%、職域及び自衛隊大規模接種会場は合わせて約13%でした。如何にかかりつけ医での接種が多いか、分かりますか？

### 藤沢市の新型コロナウイルスワクチン接種の歴史

- 2021年3月25日に医師会館において藤沢市長立会以下のワクチン接種と新対応のデモンストレーションを実施
- 2021年GW明けから医療機関個別接種を開始
- 2021年6月24日藤沢市役所本庁舎において集団接種を開始
- 市内各公民館で接種を行ったのち、ココテラス湘南(辻堂)を主会場(最大1日約1200人)として、iPark湘南(村岡)、秋葉台体育館、J.A.さがみといすゞプラザ(湘南台)、富士ビルとフリーポートパーキング(藤沢駅前)等の大規模接種会場でも集団接種を継続

### 藤沢市の新型コロナウイルスワクチン接種実績

【総接種回数】			【接種会場別回数(市内・市外)】		
藤沢市民 10月10日(月)時点	回数	対象人口接種率 12歳以上人口止 (推定:111,100人)	藤沢市民 10月10日(月)時点	回数	接種率
1回目接種	354,554回 (小児3,992回)	88.2% (小児14.2%)	市内接種	858,001回	77.6%
2回目接種 (初回接種完了)	352,919回 (小児3,833回)	87.8% (小児13.6%)	市外接種	247,981回	22.4%
3回目接種	281,384回 (小児1,722回)	70.7% (小児6.6%)	【接種会場別回数(個別・集団等)】		
4回目接種	117,125回	-	藤沢市民 10月10日(月)時点	回数	接種率
1~4回目合計	1,105,982回	-	医療機関接種 (個別接種)	826,502回	74.7%
神奈川県	回数	対象人口接種率	市集団接種	129,869回	11.8%
2回目接種 (初回接種完了)	7293292回	87.24%	職域・大規模接種	149,611回	13.5%
3回目接種	6011772回	71.91%	藤沢市は神奈川県平均よりも初回接種完了が多い！全体の約75%はかかりつけ医による個別接種！！		

使用ワクチン別にみると、mRNAワクチンであるファイザーが約71%とモデルナが28%とほとんどを占め、組み換えタンパクワクチンのノババックスが0・1%、トラザネカは極少数でした。ワクチンの効果には、①感染・発症予防効果、②入院・重症化予防効果、さらには③後遺症（コロナ罹患後症状）予防効果があります。コロナ罹患後症状とは、新型コロナウイルス感染症発症後少なくとも2ヶ月以上症状が持続するものです。厚労省のリーフレットに記載されているように、倦怠感、筋肉痛、筋力低下、咳、息切れ、動悸、脱毛、記憶障害、意欲低下等の種々の症状がみられます。統計にもよりますが、成人発症者の20〜30%に出現し、高齢や急性期症状が多いほど出現しやすいとされますが、若年者や軽症者にも起こり得ます。また小児発症の3〜10%にみられたとも報告されています。決して少なくなく、誰に出現するかは予測できないので注意が



藤沢市医師会 理事  
クローバーホスピタル 病院長  
鈴木 勇 三

新型コロナウイルス感染症に感染された方へ

## 症状が長引く？

（罹患後症状）  
ことがあることを知っていますか？

新型コロナウイルス感染症にかかった後、ほとんどの方は軽微な症状で回復しますが、いまだ不明な点が多いですが、一部の方で長引く症状（罹患後症状、いわゆる後遺症）があることがわかってきました。

罹患後症状の例

嗅覚障害	味覚障害	筋力低下	咳
疲労感	息切れ	動悸	発熱
記憶障害	集中力低下	頭痛	胃うつ
視覚障害	味覚障害	眩暈	下痢
脱毛	筋力低下		

（※）新型コロナウイルス感染症に感染した方の中には、罹患後症状が長引く場合があります。また、罹患後症状が長引く場合、重症化するリスクも高まる可能性があります。

症状が改善せず続く場合は…？  
（新たに症状が出現した場合は含む。）

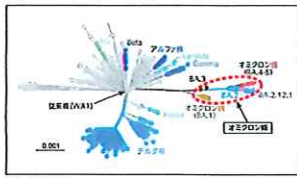
かかりつけ医等や地域の医療機関に相談しましょう。

※ 自治体によっては、相談窓口を設けている場合や相談できる医療機関のリストをホームページで公開している場合があります。

厚生労働省

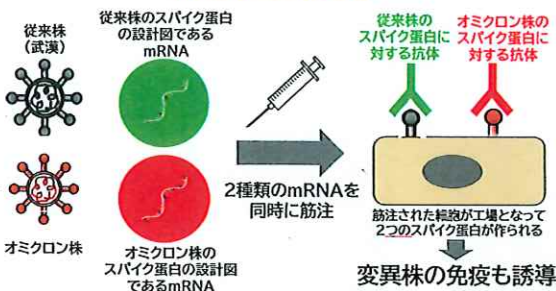
必要です。コロナワクチンで解っていることは、初回接種（2回接種）完了するとデルタ株までは90%近い発症予防効果がありました。そして初回接種完了するとコロナ罹患後症状減少効果もありました。しかし、ワクチン接種後4ヶ月経過すると発症予防効果が50%以下に減弱してしまいました。このため3回目接種、いわゆるブースター接種を行うことになりました。3回目接種を行うと抗体価の上昇のみならず、持続的な入院・重症化予防効果が得られました。これには細胞性免疫が関与していると考えられます。従って重症化予防には3回目接種が必要ということになります。しかし、3回目接種してもやはり時間経過とともに抗体価は低下してしまいました。これに対して4回目接種を実施しましたが、その後出現した変異株であるオミクロン株には感染予防効果が不十分でした。そして、新たな変異株に対応したアップデートワクチンであるオミクロン対応2価ワクチンを導入することにな

### 新型コロナウイルス変異株の系統樹



オミクロン株は系統樹的にも従来株から大きく離れている(変異している)  
従来型ワクチンでは重症化予防はできても感染防御できない  
→オミクロン対応ワクチンが必要!

### オミクロン対応2価ワクチン アップデートワクチン



りました。  
オミクロン株は新型コロナウイルスの系統樹で見ても、武漢で発生した従来株から遠く離れた(大きく変異した)遠い親戚のようなもので、従来型ワクチンでは重症化は防げても感染防御できないことがわかります。  
オミクロン対応2価ワクチンは、従来型ウイルスのスパイクタンパクの遺伝情報を持つmRNAとオミクロン株のスパイクタンパクの遺伝情報を持つmRNAの両方が含まれる2価ワクチンです。従来株に対するブースター効果に加え、オミクロン株に対する免疫も誘導します。  
このワクチンの効果は、従来型ワクチンと比べてオミクロン株に対する抗体価が上昇しますが、副反応は変わらないことがわかっています。またオミクロンBA・4/5用の2種

類のワクチンがあります。理論的にはどちらも同等の効果を得られるとされています。どちらのワクチンになるかは時期や接種場所にもよりますが、早く打てる方を受けて頂きたいと思えます。なお2価ワクチンを接種するためには初回免疫が終了していることが必要です。副反応が心配で接種を見送っている方は、副反応がより少ない組み合わせタンパクワクチンであるノババックスで初回免疫することを勧めいたします。  
同時期に乳幼児(6ヶ月~4才)用ワクチンも承認されました。この年齢層は元々重症化が少なく、その一方でマスク等の感染対策が難しい上に、幼稚園や保育園での集団生活の機会が多く、ここからの感染が家庭に入り、さらには社会に拡大していくことも稀ではありません。乳幼児への接種は集団免疫

効果も期待されています。新型コロナウイルス感染症による死亡者数は、全世界で1820万人に達しましたが、もしもワクチンがなかったら4000万人に上ったと試算されています(Lancet Infect. Dis. 2023)。ワクチンは死亡者数を55%減らしたと言えます。  
さて、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザを症状だけで区別することは困難とされています。そしてこの冬(2022/23シーズン)は両ウイルスが同時流行するツインデミックが起こるであろうと予想されています。その理由は、半年先を行く南半球の冬において、3年ぶりにインフルエンザが大流行したことにより、また、しばらくの間インフルエンザの流行を経験していないため、私たちのインフルエンザに対する免疫が低下していることも影響

響しています。日本の専門家組織であるアドバイザリーボードも警鐘を鳴らしています。来るべき冬のツインデミック対策には、日本感染症学会と日本ワクチン学会も推奨しているように、オミクロン対応2価新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンの両方を接種することが望ましいと考えます。両ワクチン間の接種間隔も撤廃されていますので、ぜひ2つのワクチンを接種して、この冬のツインデミックに備えましょう。

### 〜あとがき〜

本文は2022年10月時点のデータと知見をまとめて11月7日に発表したものです。

その後の2022年12月から、予想された通り新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行であるツインデミックが起こりました。



**第2報** (新型コロナウイルス) オミクロン株に対応した2価ワクチンの接種が開始されました。

**【第2報】**  
ワクチンの種類が増えました。  
BA.1かBA.4-5の  
いずれか早く打てるワクチンで  
1回接種をしましょう。

接種の対象と使用するワクチン

- 新型コロナウイルスとオミクロン株に対応した2価ワクチン(オミクロン株対応2価ワクチン)の接種は、**重症患者(1-2回目接種)を完了した12歳以上の者が対象で、一人1回接種できます。**
- 1-2回目接種を完了した12歳以上で接種履歴から5か月(≧)以上経過している方は再接種可能です。
- 詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

ワクチン	1-2回目接種履歴		3回目以降の接種履歴	
	12歳以上	18歳以上	12歳以上	18歳以上
ファイザー社ワクチン (BA.1対応型/BA.4-5対応型)	○	○	○	○
モデルナ社ワクチン (BA.1対応型)	○	○	×	○

(※2022年10月時点で、オミクロン株対応2価ワクチン、11歳以上接種対象となりません。)

注) 現在モデルナ社オミクロン対応2価ワクチンも12歳以上に適応拡大されました。さらに5~11歳対象にファイザー社小児用オミクロン対応2価ワクチンが使用可能になりました。

### 来るべきTwindemicとなる第8波対策

#### オミクロン対応2価新型コロナウイルスワクチン 季節性インフルエンザワクチン

2つのワクチンを接種して備えましょう!  
同時接種も可能です(間隔制限撤廃)

① 新型コロナウイルスとそれ以外のワクチンは、同時に接種することはできます。

② 新型コロナウイルスとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能です。ただし、インフルエンザワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種はできません。異なるワクチンを受けるときは接種間隔を守ります。

2回のブースター接種が行われることになると考えられます。また、新型コロナウイルスとインフルエンザの2価ワクチンが実用化されるかもしれません。